

摂津市議会 文教上下水道常任委員会記録

令和6年3月8日

(抜粋)

○松本暁彦委員

これまでの各委員の質疑もございまして、省略できるところは省略して、簡潔にやっています。

1番目、学力向上の取組です。これは、令和6年度当初予算主要事業一覧7ページに学力向上の取組があります。昨年の決算時、私の質疑にて、教育長は、学力課題に関して、伸びている小学生が中学校に入り、中学校でどんな授業をしていくのかが大事と言われました。具体的にどう取り組まれているのか、お聞かせください。併せて、本市課題の学校外での学習時間確保について、どう改善しているのか、お聞かせください。

2番目、非認知能力、子どもの体育の充実についてです。市政運営の基本方針では、「生きる力」を育むために、こどもたちにより丁寧に対応していくとのこと。この生きる力には、非認知能力の向上は欠かせません。いじめ問題でも、コミュニケーション力の弱さが影響している現状があり、中学校の授業を見させてもらった際にも、グループワークをしている生徒たちの間で、積極的に関わっている子とそうでない子の差は明らかに見て取れます。学力以上に、社会で生き抜くにはコミュニケーション力を養うことが重要と考えております。また、決算時に担当課は、アフターコロナ対応として、コミュニケーションの機会を増やしていくことが大事と答弁されています。今、コミュニケーション力を向上させる認識で、教育委員会とは一致していると考えます。具体的にはどう増やしていくのか、どう取り組まれるのか、お聞かせください。

3番目、キャリア教育推進事業です。これにつきましても、私がやる気スイッチ施策を提言してから、キャリア教育の推進につながって、今、当たり前のように進められており、大変評価をしております。会派としては、小中一貫教育、9年を見通した教育が必要と提言をしております。その中で、代表質問の答弁でキャリアパスポートという言葉が出てきております。キャリアパスポートの重要性は認識をしております。改めて具体的な内容等についてお聞かせください。

4番目、令和6年度当初予算主要事業一覧7ページ、学習サポーターの件です。既に内容等にも質疑があり、教員不足のところでもお聞きしました。令和5年度は9人、令和6年度は常勤10人が教員不足で、今、探しているところです。昨年9月の一般質問で教員不足の質疑を行いました。それから一向に改善できず、慢性的な欠員が続いている状況です。これは、学校の教員定数そのものが教員の病欠や産休などでいなくなることを考慮していない、構造的な問題です。その構造的な問題で、市教育委員会が四苦八苦している現状と思います。そこで、大阪府へ改善を求めていくべきだと前回の一般質問でも言っております。教員不足の解消について要望とかしているのか、その点、お聞かせいただきたい。

5番目、令和6年度当初予算主要事業一覧7ページ、オンライン教材です。中学校の各校へ普及していく考えを述べられました。普及に当たって、まず、どう評価をしているのか。当然、学力という点で、英語の能力向上を図るということでのよいのでしょうか。

向上が見られなければ、また別のものを検討するのか、お聞かせください。併せて、令和4年度のチャレンジテスト 全国学力・学習状況調査です。英語だけでなく、数学や国語も低い状況です。そこへの支援はどう考えているのか、お聞かせください。

6番目、令和6年度当初予算主要事業一覧8ページ、学校給食の喫食率向上の取組です。これは、以前からもずっとお聞きしております。引き続き、デリバリー方式です。喫食率の推移等も踏まえ、令和6年度の取組についてお聞かせください。

7番目、小中学校通学区等調査です。これも令和6年度当初予算主要事業一覧8ページあります。安威川以北の調査の必要性についてはどう考えているのか、お聞きします。

8番目、図書館事業についてです。これは学校教育課にもありました読書活動の推進で、図書館側から小・中学校とどう連携して、読書推進をされようとするのか、お考えをお聞かせいただきたい。

9番目、就学前教育の取組でございます。就学前教育推進事業で、令和6年度の取組の要領と、小1スタートカリキュラムがようやくできて進めているということです。どのようにされるのか、お聞かせください。

10番目です。アウトリーチについての内容は理解いたしました。こちらについては、孤立家庭を防止する観点で、これまで提言をしており、その具体化をされたということで評価をしております。これで大事なのは、ネットワークという言葉がキーポイントだと思います。具体的にそれぞれの連携について、どのようになっているのか、お聞かせいただきたい。

11番目、つどいの広場についてです。令和6年度は、公設2か所、民設10か所の合計12か所を開設していくということです。実際、どれだけの方がつどいの広場を利用しているのか、利用状況についてお聞かせいただきたい。対象となる方がしっかりと認知し、利用されているのか、お聞かせいただきたい。

12番目、初回産科受診料の助成についてです。非課税世帯等で、20世帯から30世帯で補助対象を計上しているということです。なぜ所得制限を設けるのかというところですか。2人、3人の子供を持っておられる家庭は、経済的負担も大きいものと考えております。全ての妊産婦へ助成をしようとはならなかったのか、その経緯と理由についてお聞かせください。

13番目、こども計画、出生数についてです。令和5年度の出生数が過去最低を更新しているということです。摂津市の令和5年度出生数の推移についてお聞かせください。

最後、14番目、学童保育に関わる場所です。千里丘一帯は、千里丘小学校の建て替えが学童保育にどう影響しているのか。千里丘東地域においてはマンション建設も進む中、千里丘地域、千里丘東地域一帯の人口増への対応についてどうお考えなのか、お聞かせください。質問は以上です。

○村上英明委員長

では、答弁を求めます。松本参事。

○松本学校教育課参事

それでは、1番目の学力向上に関わり、中学校の授業をどのようにしていくのかという御質問にお答えいたします。

まず、授業改善の方向といたしましては、学習指導要領に示されております主体的、対話的で深い学びに向けた改善ということで取り組んでまいります。具体的には、主体的という部分では、先生が一方向的にレクチャーするのではなく、生徒が自己選択、自己決定ができるような場面を設定する。そして、対話的という部分につきましては、自分自身との対話、教材との対話、そして友達、他者との対話という場面設定を考えた授業設計を行ってまいります。

また、習熟度及び個に応じた授業なども、実際に取り組んでいるものを継続して取り組んでまいりたいと考えております。

さらに、学校外での学習時間についてのお問いでございます。こちらにつきましては、まず市としましては、やはり摂津SUN SUN塾で学習機会を設けること、そして各学校の好事例を共有している例といたしましては、中学校の定期テストに合わせて、小学生にも家庭学習ウィークということで位置付けて、家庭学習の習慣を身に付けるという取組を継続的に進めてまいりたいと考えております。

続きまして、2番目の非認知能力についてでございます。コミュニケーション力をつけるために、具体的にどのようなことに取り組むのかというお問い合わせでございます。

こちらにつきましては、現在、全校的に子供が主役の学校づくりということを推進しているところでございます。その具体的な内容といたしましては、よりよい学校づくりをするに当たって、子供たちの話し合い活動、こちらに取り組んでいるところです。主に国事業で取り組んでいる第五中学校の好事例を、全校区で共有して、普及してまいりたいと考えております。

3番目、キャリア教育について、キャリアパスポートの具体的な内容についてでございます。こちらは、小学校から高校までのキャリア教育に関わる学習状況について、子供自身が記録をし、そして先生もコメントを書き、子供が自分自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのことでございます。以上です。

○村上英明委員長

田中参事。

○田中学校教育課参事

4番目の大阪府教育委員会にどのような要望を上げているかという御質問にお答えさせていただきます。大阪府都市教育長協議会から大阪府教育委員会に上げている要望の一つとして、教員の処遇改善が挙げられます。具体的に申し上げますと、教諭であったり、教頭、校長、それぞれ職階の号給に応じた手当、いわゆる義務教育等教員特別手当の増額、さらに給特法を見直し、教員の勤務実態を踏まえた、現在は4%の教職調整額の増額、また問題行動への対応など、組織的に対応が必要な時間については、時間外勤務手当の支給などを大阪府教育委員会に求めて おります。以上です。

○村上英明委員長

武田課長。

○武田教育支援課長

5番目のお問いの前半部分、英語の学習ツールの評価をどうしていくのかという部分について御答弁申し上げます。結論から申し上げますと、学力テスト等の点数が、この英語学習ツールを使うことで直ちに上がるというところを評価の対象とはしておりません。もちろん、そうなってほしいという思いは持っておりますが、今回の導入を予定している英語学習ツールBASE in OSAKAには、児童・生徒の学習状況を学校や教育委員会が把握することができるようになっております。

例えば、新しい問題に何問チャレンジしたのか、あるいは一度Cと判定されたんですけども、Aになろうと思って何回も繰り返し頑張った、そういった努力の評価がポイントとして表示されるシステムになっております。先日の西谷委員の御質問の中でも触れましたが、留学生の交流とか、子供の意欲を高めるための取組であったり、モデル校で実施した授業の工夫、課題の出し方、そういったものと子供をたちの活用状況の変化を市内の英語担当の教職員で共有しながら、モデル校での取組が子供たちの学習意欲にどうつながっていったのかというのを評価していきたいと考えております。

○村上英明委員長

松本参事。

○松本学校教育課参事

同じく、5番目のお問いの中に、数学、国語、英語についての取組をどうするのかということがございました。こちらにつきましても、先ほど御答弁いたしました授業の改善をもちろん推進してまいりますとともに、その内容といたしまして、子供たちが知りたい、聞きたい、学びたいと感じられるような教材作成等にも取り組んでまいります。

また、その授業の中への学習支援としては、先ほど来から出ております学習サポーター等の支援人材の活用もしてまいりまして、他の教科の支援もしてまいりたいと考えております。

○村上英明委員長

松田課長。

○松田教育政策課長

6番目の中学校給食についてのお問いに御答弁申し上げます。まずは喫食率についてでございます。令和4年度は、6.8%でございましたが、本年度に入りまして急激に増となり、1学期は8.8%、2学期は9.2%にまで上がってございます。月別でもデータをとっておりまして、12月には目標であった10%を超え、1月9.5%、2月は10.2%と非常に高まってきているような状態でございます。

令和6年度の取組といたしまして、これまでデリバリー給食の課題でございましたお

代わりをしたい子がお代わりができないということに対応いたしまして、同じ値段で御飯の大盛りを実施させていただくものでございます。今年の新入学説明会において、その話を御説明させていただきましますと、親御さんからは喜びの声をいただいておりますので、来年度には目標を達成できるようになるのではないかと期待はしております。

私どもは、この喫食率の数字を追っているのではなく、子供たちに栄養のあるものを届けたいと思っておりますので、そのことは忘れず、念頭に置きながら進めてまいりたいと考えております。

7番目、安威川以北での調査の必要性についてでございます。安威川以北だけでなく、全15校、いずれについても言えることではございますが、毎月生まれたお子さん方の数字を校区別に把握をしておりますして、それぞれ学校の人口推移というものを住民基本台帳上から分かる範囲では作成し、推移を見ております。特に第三中学校区、千里丘小学校につきましては、健都のマンションができた頃から増えておりますので、令和2年度に人口調査等を実施いたしました。その折には、ちょうど千里丘駅前西地区再開発の情報が入ったところではございましたので、そこを踏まえての人口推計を出すことができております。したがって、第三中学校につきましては、おおむね将来的にも見越しておる次第でございます。

第一中学校区につきましては、摂津市駅前の大規模マンションもいったん落ち着いてきまして、今はピークを越えたような状況でございます。まだまだ味舌小学校区についても推移を見ていかないといけないと思っておりますが、安威川以北を中心とした校区変更も含めた調査については、今のところは実施はしなくてもいいのかと考えております。以上でございます。

○村上英明委員長

千葉課長。

○千葉生涯学習課長

それでは、8番目の図書館側として、小・中学校との連携についてどのように考えているかにお答えします。直接、小・中学校連携を行うために、令和4年度より中学校の図書担当者と図書館職員によりまして、情報共有や現状の課題などを話し合う場としまして、図書担当者会議を設けております。また、図書館と小学校との連携を強化する目的で、図書館への距離が遠い小学校に対しまして、本を配送する事業を行っております。

全ての子供に読書の楽しみを知ってもらって、主体的に読書をする習慣を身に付けて、健やかに成長していただけるように、摂津市子ども読書活動推進計画における、読書活動の推進に向けて、今後も工夫した事業を実施してまいりたいと思っております。以上でございます。

○村上英明委員長

中川参事。

○中川こども教育課参事

9番目、令和6年度の就学前教育・保育推進事業についてお答えいたします。予算計上しておりますのは、研修の報償費及び新しい補助金の創設部分でございます。研修に関しましては、就学前教育・保育実践の手引きというものを令和4年度に改訂しており、その記念講演会ですとか、それを広めていくという研修を2回追加させていただきました。令和6年度も同回数を維持したままで、これからも本手引きの内容を周知していこうと思っておりますので、その分の予算をとらせていただいております。

また、予算外ではございますが、事務局が講師として参加しまして、離職防止の観点も含めまして、勤続1年目から5年目未満の職員を対象に、日々の保育に役立つ遊び等の実技研修を実施しております。こちらも好評いただいておりますので、令和6年度は回数を増やして実施する予定です。

また、新たな補助金制度でございますが、絵本の購入に関する補助金制度でございます。様々な園を訪問するたびに、絵本自体が少ない園もあれば、絵本は多いけれども、行事等でみんなで見れる大型絵本がないという園もございます。園の裁量で、今、自園で一番必要な絵本を買っていただきたいという思いも込めまして、園の規模によって金額は変わってくるんですけども、そういう補助金制度を予定しておるところです。

また、予算外ではございますが、こちらも小学校との連携事業、接続期の教育・保育の事業がございます。4月から2月、3月まで年間計画を立てて、現在もまだ進行中なんですけれども、その中で一例を申し上げますと、コロナ禍ではありましたが、小学校探検というものを、令和3年度から、少しずつ実施させていただいております。令和5年度には、教室の中にも入らせていただいて、充実した取組となっております。それ以外に、学校のほうにちょっと何かしら交流とか、子どもたちの心に残るようなものが実施できないかということで投げかけさせていただき、各校でいろいろ考えてくださいました。例えば、1年生の椅子と机に座って、1年生がその横でサポートしながら楽しいプリントをやってみるとか、校庭や体育館でマルバツゲームや一緒に遊ぶ等のゲームをすとか、本当に様々なことを考えてくださいましたので、令和6年度は、この令和5年度をベースに、増やしていくばかりではなく、今ある取組を充実させながら、学校と園の両方の負担にならないことがまず大前提だと思います。そのあたりの負担感も見据えながら、双方にとってメリットのある取組となるように令和6年度も進めていきたいと考えております。以上です。

○村上英明委員長

古賀課長。

○古賀家庭児童相膜課長

10番目のこどもつながり訪問事業の関係機関とのネットワークについてお答えいたします。対象世帯を訪問した際には、各家庭が抱えている課題に対してのアプローチに、やはり関係機関の協力は欠かせないと考えております。まず事業実施に当たりましては、要保護児童対策地域協議会の関係機関にもしっかりと制度説明を行ってまいりたいと考えております。例えば、経済的なことですとか、就労の課題があれば、生活支援課

につながることになるかと思えますし、また児童手当等の申請手続が滞っているようであれば、子育て支援課につながったり、またネグレクトといいますか、ごみ屋敷で極めて不衛生な状況とか、そういったことが発見されれば、虐待通報として、同じ課にはなりませんけれども、家庭児童相談課の虐待対応のケースワーカーにつないで対応することになると考えております。

また、日頃の見守りについても、地域の民生委員とか主任児童委員にもお願いすることになるかと思えます。こういった関係機関につなが際には、訪問支援員、アウトリーチャーに任せるだけでなく、家庭児童相談課の担当地区のケースワーカーともしっかり情報共有しながら対応してまいりたいと考えております。

いずれにしましても、訪問の際には、しっかりと困りごとを丁寧にお聞きして、また家庭の状況とお子さんの様子をしっかりと確認した上で、関係機関と連携を図りながら、必要な支援につなげていきたいと考えております。

○村上英明委員長

坂本課長。

○坂本出産育児課長

それでは、11番目、つどいの広場に関する御質問に対して御答弁申し上げます。つどいの広場は、主に未就園の子とその親が気軽に遊べる場としての役割と、家庭での育児の煮詰まりを防ぎ、保育士資格を持った常駐職員に子育て等の悩みを相談できる場としての役割がございます。令和4年度の利用者数といたしましては、市内11か所の施設の合計で延べ2万6,965名、令和5年度で申し上げますと、令和5年度1月末現在で延べ2万3,122名となっております。多くの親子に気軽に利用していただいております。また相談件数も、公設2か所の広場だけでも、例年1,000件を超える相談をいただいております。悩み解決の場として活用していただいております。

12番目、初回産科受診料についての御質問で、所得制限を設ける理由についてでございます。この制度の目的といたしまして、経済的支援と併せまして、早期から妊婦と関わることにより、必要なときに必要な支援を行えるつながりをつくっていくことを考えております。経済的な問題を抱える妊婦は、妊娠後期から産後において関わりが必要になることが非常に多くございます。私どもといたしましては、この制度をきっかけとして、支援が必要な妊婦と早期につながりたいと考えることから、非課税もしくは生活保護世帯を対象としたものでございます。

13番目、出生数についてでございます。本市における出生数の推移についてでございますけれども、令和に入ってからの数値を申し上げますと、令和元年度が765名、令和2年度が755名、令和3年度が759名、令和4年度が725名となっております。また、年度途中ではございますけれども、令和5年度の出生数の状況はさらに減少しております。2月末時点の速報値では599名となっております。700名台を下回ることは確実となっている状況でございます。以上でございます。

○村上英明委員長

飯野課長。

○飯野子育て支援課長

14番目の学童保育に関する御質問でございます。千里丘小学校の建て替えの影響でございます。千里丘学童保育室におきましては、令和5年度当初で122人の児童が入室し、3クラスで運営しております。そのうちの2クラスは学童専用棟で運営しておりまして、残りの1クラスが解体が予定されている校舎の教室をお借りして運営しております。そちらの教室につきましては、令和6年度、既存の校舎の別の教室をお借りして運営させていただく予定となっております。

また、千里丘駅周辺の開発に伴う対応でございますけれども、まず西口周辺につきましては、健都の開発もございまして、既に子供の人口の増加ということが見えております。あと、東口周辺につきましては、現在は横ばいの状況でございますが、今後増加するということを見込んでおります。

また入室率も年々、右肩上がりです。上昇しておりますので、そういったことを考えましても、今後もいずれの学童保育室についても、利用数の増加を見込んでいく必要があると考えております。そのため、千里丘学童につきましても、現在、新設しております校舎に学童保育室としての教室をお借りするという事で、確保していただいております。また、摂津学童保育室につきましては、今年度、増設工事をさせていただきまして、三宅柳田学童保育室につきましては来年度、建設を予定しておるところでございます。以上でございます。

○村上英明委員長

暫時休憩します。

(午後2時54分 休憩) (午後3時18分 再開)

○村上英明委員長

再開します。松本委員。

○松本暁彦委員

2回目の質問をさせていただきます。

1番目、学力向上の取組について、中学校での授業と、学校外での学習時間の確保についての改善については、御説明のとおり、一定理解をいたしました。御答弁の中で習熟度別指導というお言葉もありました。私も習熟度別指導は、特に中学校で必要になると考えております。例えば、偏差値上位校を受験する子と、そうでない高校を受験する子の、求められる学力は異なります。むしろ学力差自体は、それぞれの個性であり、否定するものではなく、個々の学力を認めた上で必要な授業・指導をして個々の学力を伸ばすことが大切であると考えます。決算時には、教育長も熱く受験生の体験について語っておられ、公教育で頑張っていきたいと答弁されております。

吹田市の中学校に通う子供を持っている方と話す機会がありました。3年生はもちろ



んのこと、2年生でも塾に通う子供の数が大変多いとお聞きしております。塾、すなわち、それが学校外の学習時間に反映してこようかと思えます。加えて、塾では学力別や個別指導での授業が一般的で、個の能力を伸ばしています。それと比較して、本市では決して塾通いは多くない現状があると感じております。地域性にもよりますけども、経済的な事情など様々な要因もあります。あくまでも塾というのは民であり、各家庭の判断です。

そういった本市の状況を踏まえ、公で本市の課題を克服するには、他市以上に学校において、個々の能力に寄り添った丁寧な指導しかないと考えます。それが習熟度別授業・指導です。実際に習熟度別指導・授業は、成績向上に貢献すると多く評価があります。ただ、実施に当たっても、なかなか中学校では課題が多いと認識しております。そこで、習熟度別指導の効果と中学校での実施においての課題について、どう考えているのかお聞かせください。

2番目、非認知能力の向上についてです。コミュニケーションの機会を増やしていく、話の場等を増やしていくということで理解をいたしました。答弁の中で、第五中学校区での取組を普及していくとおっしゃられました。第五中学校区の取組、その具体的内容、よかった点、そして、その他校区に少しでも早く普及する必要があると思うんです。その手だてはどう考えているのかお聞かせください。

続きまして、3番目です。キャリアパスポートの件です。自己評価について、小学校から高校まで持っていくもので、9年間、見通した教育の大きな手段になると思えます。

キャリアパスポートで書かれたことを、我がこととして、さらに思うようになるには、人前で発表するというのも重要かと思えます。人前で話す力を養うことも生き抜く力には必要で、コミュニケーション力にもつながります。また、人前で発表することで、一層真摯に子供たちは考え、また、他の子供の考えを聞き、お互いに切磋琢磨できます。いいこと尽くしだと思います。それについてどうお考えかお聞かせください。

4番目、学習サポーターの件です。実際に、教員不足の件です。大阪府への要望については理解をいたしました。大阪府は、今、公立高校をどんどん潰している状況で、非常に残念であります。そこで浮いた予算をしっかりと教育にもっともっと力を入れるべきだと思います。そこについては、摂津市の教育委員会でも議会から突き上げられていると、もっともっと大阪府教育委員会に言っていたきたい。

慢性的な教員不足は、子供の教育にとっては適切ではないと考えます。子供の教育のためにも、しっかりとそこはやっていただきたい。いろいろと現場を回る中で、研究校指定で加配教員がいて、結構助かっているとお聞きをします。研究校をどんどん増やして行って、加配教員を増やしていく手法も一つと思えます。ぜひ、教育委員会として、研究をするのはいいことだと思いますので、人員の確保も併せて、どんどん取り組んでいただきたい。これについては、要望とさせていただきます。

5番目、オンライン教材、英語の導入についてです。単純に、すぐ英語の点数につながるものではないということです。結果につながることに、英語の意欲向上と、教員との連携につながっていくんだと理解をいたしました。私も、英語に力を入れること自体は決して否定するものではないです。前回の決算、今回の予算も踏まえ、英語の教育支援について、予算が偏っている印象を受けます。あくまでも数字を出しているわけじゃ

ないんで、感覚的です。

英語は第二言語であって、第一言語は、日本語、国語です。チャレンジテストも学習状況調査を見ても、国語が一度も全国平均を上回っていない状況です。摂津市としては生きる力を育むということで、最も必要なのは、国語だと思うんです。一般的に、国語力、例えば就職試験でもエントリーシートの書き方、面接でも、問われるのは、国語であって、国語力によって生涯年収の差がつくと思っております。バイリンガルの方は、よく英語脳があるとお聞きします。一般的な人は、英語を聞いて、頭の中で国語に変換して、そしてまた国語から英語に変換して口に出すという手法です。国語力を培っていないと、英語でのコミュニケーションもできない。できる方もいるかもしれませんが、大抵の人は、国語あっての、英語になってこようかと思っております。

まずは生きる力において、国語力を高めることが優先的に高いと思います。教育支援課は、教育総務部全体の方針、考え方と思います。教育支援活動も、ぜひ力を入れていただきたい。

これは河平副理事、もしくは部長に質問です。生きる力の中で、国語力をどう位置付けているのか、令和6年度、国語力は全国平均を上回るんだという意気込みを聞かせていただきたい。何も英語を否定するわけではなく、これ自体は結構かと思えます。しかし、生きる力を養う国語というところに、どこまで真摯に取り組んでいるのか、お聞きしたいので、よろしく願いいたします。

6番目の中学校給食についてです。喫食率の向上については、12月は10.2%、ついに目標としていた10%を超え、高く評価をいたします。令和8年度まで続くということです。大盛りも入れたということで、しっかりと子供たちにとって、よりよいデリバリー方式の給食を要望します。

給食センターについてです。これは代表質問で、災害時の炊き出しとか、食育の研修機能とか、地域等の要望の必要性等も要望させていただきました。改めてその点について、教育委員会としてどう考えているのかお聞きします。

7番目、小中学校通学区域等調査についてです。安威川以南の調査の必要性は、一定、理解をいたしました。第三中学校については見通しをしている、第一中学校についてもというところですが。これについては、先ほどの出産育児課で答弁がありましたけれども、令和5年度の出生数が2月で599人、3月を含めても、恐らく600人前後です。令和4年度から100人近く減っています。コロナ禍の影響もあるけど、すごく恐ろしい数字だと思うんです。これについては、全ての教育関係に関わってくると思っております。大きく修正する必要も出てくるレベルの出生数の低さです。そこはぜひ考慮していただきたい。

通学区域で、これまでいろいろと出ております自転車通学とバス通学についてです。千里丘新町の方から、第三中学校への通学は遠いので自転車がどうなのかっていう話や、統合に向けた鳥飼新町地域から鳥飼小学校への通学課題を挙げられています。その点についてはどう考えられているのか、お聞かせください。

8番目、図書館の小・中学校との読書連携についてお聞きをいたしました。ぜひ、しっかりと進めていただきたい。その上で、就学前教育施設と図書館との連携も非常に重要になってくると思います。先ほど絵本購入という話もありました。読み聞かせは、小

さい頃からの習慣化が、重要になってきます。就学前教育施設と図書館との連携についてはどうお考えなのかお聞きします。

9番目、本当にしっかりと進めておられ、今の取組については、大変評価いたします。私は、就学前教育については大変重要であると考えております。そこでの学びの基礎力を培うことは、次の大きなステップにつながっております。

内田伸子先生の論文で、学力格差は幼児期から始まる。幼児調査に参加した5児を小学校1年生の3学期まで追跡したところ、幼児期の語彙力と読み書き能力と語彙得点は、小学校の国語学力に因果関係を持って影響する。また、語彙の豊富さが学力基盤であることが明らかになった記述があります。

脳科学でも、脳の発達が著しい幼少期に適切な教育環境を提供することで、地頭のよい子となり、将来における成功要因になると指摘されております。就学前教育の向上が、本市の学力課題を解決すると考えております。

ただ、それについては、私立園が大半であり、それらの協力が欠かせません。例えば、市内のある私立園で、語彙力向上の取組で、漢字遊びを受けた子供の保護者にアンケートを取って、語彙力が上がったという回答が半数を超えたとお聞きしております。それ以外でも、就学前教育においては、各公・私立園での独自ですばらしい取組をしております。

課題は、それらの取組が各園止まりであることです。それらについては、情報共有を行う場が必要と考えます。それぞれのよい取組を情報共有することは大変有意義であり、市全体の就学前教育の向上に資するものと考えます。議会でも、市に反映する・しないにかかわらず、先進事例を視察して学ぶ機会は、大変重要であると認識しております。そういった情報共有の場について、どうお考えなのか、お聞かせください。

10番目、家庭児童相談課のアウトリーチャーの連携の取組については、理解をいたしました。これも含め、新しい母子施策の取組については、大変高く評価しております。

これは部長に要望です。しっかり今、児童虐待防止の取組が進んでいる中で、人材についても育っていると思います。人事異動で急に力が減ることがないように、しっかりと体制の質が維持できるように頑張ってもらいたので、引き続き、家庭児童相談課の児童虐待防止の取組を推進することを要望して、この質問は終わります。

11番目、未就園児のつどいの広場の件です。令和4年度で、約2万6,000人と、令和5年度も既に1月で約2万3,000人です。非常に多くの利用者があり、ニーズがあると理解いたしました。これは、引き続き、しっかりとやっていただきたい。就学前教育の重要性は先ほども述べましたが、一人でも多くの子供たちが就学前教育を受けていただきたい。そういったところに関して、照会、アプローチは、どのように考えているのかお聞きします。

12番目、初回産科受診助成の趣旨については理解いたしました。これについては、特に反対するものでもございません。しかしながら、昨年の吹田市の事例でもありました。詳細は忘れたんですけど、子供の支援給付において、非課税世帯のみでなく、いわゆる一般的な、課税世帯にも支援を市独自で出したという経緯があります。それについては、税金を納め、頑張っている自分たちが、少子化対策に貢献をしているんだというところ。国は何も見えてくれないのかという不満が、吹田市議会議員等に多々入り、

吹田市を動かしたとお聞きしております。

ある記事を紹介します。これは、給与や退職金・年金に関する手取り資産をファイナンシャルプランナー深田氏が試算したものです。額面年収700万円の人における21年間の手取りを試算したところ、額面年収はずっと同じ700万円なのに、手取りは2002年には587万円あったものが、2023年には536万円に激減し、21万円の減収となっております。これは、日本の給与水準が増えない中で、増加し続ける社会保険料や消費税など、増税プラス、ステルス増税と言われる中で、家計がどんどん苦しくなっている実情がある。そこについては、やはり考えていくべきと思っております。

ただ、今年度2月で599人と、非常に深刻化する中で、市として少子化対策にしっかりと取り組んでいるんだ、子供ができたことは喜ぶべきものというところで、そこに、所得制限を設けるのは、いかがなものか、やはり疑問に思います。ぜひ、今後は、制度の意義として、おめでたい、祝うという趣旨で、制限なしを検討していただきたい。これについては要望とさせていただきます。

13番目、出生数についてです。令和5年度、2月で599人。令和4年度は725人なので、本当に疑うような数字です。これは、コロナ禍での影響も大きいと考えております。令和6年度も、非常に厳しい状況が続いていくと思います。こうなってくると、待機児童の話も、自然解消になってしまうだろうし、それどころか、もう二、三年のうちに、就学前教育施設存続の議論すら始まっていくのではないかと。その後に来るのが、小・中学校の統廃合の話で、非常に本市の教育施策を変えていく可能性があり、大変危惧をしております。それに対応する計画をしっかりと準備をしていかないとと思ます。

それを踏まえ、今後の子育て支援教育に及ぼす影響について、併せて子供が一人の世帯が多いので、より多くの子供を産んでもらうことが大切だと認識をしております。(仮称)摂津市こども計画の反映について、総括的に大きなことになるので、部長答弁でお願いをします。

14番目の学童保育の件です。千里丘小学校の建て替えの影響は、しっかりと対応しているということで、理解いたしました。また、千里丘地区、千里丘東地区の他の人口増への対応については、ピークに至ってないところもあろうかと思ます。そういった意味で、我々会派は、ずっと提議しています、千里丘一帯の、子供の居場所の確保が必要と考えております。旧三宅小学校跡地で耐震化されていない校舎が残ったりと、まだまだ利用できる空間があります。

そういったところで、PFIなどで、子供の居場所の確保と併せて、将来的な子供減も踏まえた高齢者等の交流施設を検討する必要があると考えております。これについてどうお考えなのかお聞きします。これも、部長答弁でお願いいたします。質問は以上です。

○村上英明委員長

では、答弁を求めます。松本参事。

○松本学校教育課参事

それでは、1番目の習熟度別事業について、中学校における効果と課題についての御

質問にお答えいたします。

まず、効果といたしましては、学級集団を分割することから、きめ細かく一人一人の生徒の課題を見取ることができ、そのつまずきポイントについて、即時にフィードバックしやすくなるということが、一つ目の効果としてございます。また、指導の中で、子供たちの学び方の個性について気づきやすくなるという利点もございます。

例えば、じっくりと考えることで理解度が深まる生徒ですとか、見ることで理解度が深まる、聞くことで深まる等の、そうした学び方の個性に気づき、手だてを打ちやすくなるという効果がございます。

一方で、課題についてなのですけれども、やはり集団を分けることから、教員の数を確保しなければならないということがございます。そして、集団を分けて、それぞれ授業進度が非常に差がつくというのはいけないことですので、授業進度を合わせる工夫についても、一定、やっていかなければならないことになろうかと思えます。

そして、また、これは課題というか、注意点でございますが、やはり学ぶに当たってのプロセスに対する支援でございます。目標を下げることにならないよう注意はしなければならない、これも課題の部類になろうかと存じます。

続きまして、2点目の第五中学校区の取組についての具体性でございます。こちらは、国事業の委託を受けて取り組んでおるものです。まず、取組の大枠といたしましては、従来、教員主導で行っていたものを子供に委ねて、子供が主役の学校づくりを行うというものでございます。

具体的には、小学校も中学校も取り組んだのは、まず、運動会・体育祭の種目を新しく自分たちで発案・企画したり、子供たち自身のアイデアで取り組んだこと。また、周年行事がたまたまあった学校におきましては、キャラクターを子供たち自身で募集して、その中から選んで決定したというようなエピソードもあります。

そして、第五中学校においては、生徒会がこれまで取り組んでいないことで、こんなことをやってみたいというアイデアを、この指とまれプロジェクトということで、全校生徒に、こんなことを何月何日にやるんで、やりたい人、集まってくださいというような、子供たち自身が自ら発案して取り組む行事などが報告されております。

それらを普及する手だてですけれども、本市においては、小・中学校15校に魅力ある学校づくり担当者を設定しております。その担当者連絡会を定期的に開催し、そうした第五中学校の事例を第五中学校と鳥飼小学校、鳥飼東小学校の担当者から発表していただくなどして共有し、また各校に持ち帰って、実現可能なものについては、取り組むという普及の仕方を今、進めているところでございます。

そして、3点目のキャリアパスポートの内容を発表することについての御質問にお答えいたします。こちらは、子供たち自身が夢や志を発表したり、仲間のそうした思いを聴くことにより、非常に触発される、よい取組かと思えます。キャリア教育の中で、自分たちが職種体験等で学んだことについて発表し、プレゼンし、共有するというような取組について、進めているところでございます。

このキャリアパスポートそのものにつきましては、自分自身の振り返りや成長を図る自己評価というもので、主な狙いとしては、自分自身との対話で進めていくものですから、即座にそれを発表する材料とするかどうかは別といたしまして、そういった夢や志

を発表するというのは、非常によい取組かと認識しております。以上です。

○村上英明委員長

河平副理事。

○河平教育総務部副理事

5番目の御質問の生きる力を育む中で、国語力の向上に対する意気込みについて御答弁申し上げます。国語については、対話力や読解力、語彙力、思考力もそうですが、様々な力を育むことにつながって、全ての教科の基礎となるものと考えております。

その内容につきましては、学習指導要領の中にも言語活動の充実ということで示されておりまして、言語というものは国語そのものでございます。その中で、本市におきましても、小学校でも多くの学校が国語の研究に取り組み、研究授業や研究発表等を行っているところではあります。

また、本市としましても令和4年度までに、国事業の「学力向上のための基盤づくりに関する調査研究事業」を受け、その中でも、魅力ある言語活動の充実について取り組んできました。その取組の内容については、読解力向上を目的に取り組み、各学校に普及を努めてきたところがございます。中学校におきましても、教科の特性はいろいろありますけれども、全ての学びの基礎となりますのは国語になりまして、やっぱり国語力を高めていくことは重要であると捉えております。

教育委員会といたしましては、これまで小学校で学んできたことなどを、中学校でも積み重ねていくことで、小・中学校が連携して、国語力を中心とした学力向上に取り組んでいきたいと思っております。そのようなことを通して、子供たちがこの社会を生き抜く力が育めるように取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○村上英明委員長

安田部長。

○安田教育総務部長

私からも、少し答弁をさせていただきます。私も、令和5年度の文教上下水道常任委員会の皆様の視察に、同行させていただきました。東京都世田谷区で、教科「日本語」の授業を拝見させていただきました。そこで、子供たちが日本語に親しみ、国語についてしっかり考え、また、話すことに取り組んでいる姿を拝見させていただきました。

やはり国語・勉強だけでなく、話す力、コミュニケーション力も大事だと。これからの生きる力の基本となってきますので、我々教育委員会としても、その辺、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

○村上英明委員長

松田課長。

○松田教育政策課長

給食センターの機能についての問いでございます。今、市の財政状況が、たくさんのハード事業がある中で、給食センターの機能については、必要最低限の機能であるということは、職員として、当然、認識をしております。

しかし、やはりこれまでも申しておりましたが、食品を置いていること、また、能登半島の地震の例でもそうではございますが、温かいものを提供できる可能性がある施設として、防災の視点において、何もしません、何も考えませんということは、難しいと思っております。少なくとも、備蓄ローリングストックについては、実施可能ではないかと、これまでも申し上げておりましたが、それだけではなく、今後、設計等の中で何ができるのか、担当課とも相談しながら、何らかの貢献ができるように努めてまいりたいと考えております。

また、食育という面に関しましては、ここが中学校給食の食育の発信地となれるように、私どもの職員も深く関わっていくこととございます。地域であったり、様々なところにも発信できるような、例えば保健福祉課の栄養士と共に、離乳食講習会であったり、高齢者対象の講習会ができるのであれば、小さな会議室とかができればいいと、担当課とも話はしています。

この決まった広さの中で、今後どのような設計がしていけるのかにも関わってまいりますので、様々なことを検討しながら、もちろん地域貢献も考えながら、取り組んでまいりたいと考えております。

○村上英明委員長

河平副理事。

○河平教育総務部副理事

自転車通学・バス通学の可能性について御答弁申し上げます。現在、第三中学校で、自転車通学は、モデル的に実施しております。この内容も、先ほどからありましたように、子供たち自身がこの課題について話し合い、生徒会等で議案として上げて、職員会議等で話し合い、実現につなげてきたものです。

この内容については、各中学校でも共有しております。今後、学校の取組の中で実現していく学校も増えていく可能性はあるかと思えます。バス通学の可能性についても、今後、通学区域が広がった場合については出てくる可能性もあると捉えております。以上です。

○村上英明委員長

千葉課長。

○千葉生涯学習課長

それでは、8番目の就学前施設と図書館との連携についてお答えします。

就学前施設の連携といたしまして、摂津市立子育て総合支援センターに絵本・紙芝居・大型絵本など、図書館の本を配送しております。乳幼児期の子供たちに本との出会い

を提供するとともに、本の楽しさを知ってもらう取組を行っているところでございます。

その他、就学前施設ではございませんけども、コミュニティプラザでの出張おはなし会ですとか、図書館でおはなし会を未就学児向けのイベントとして実施しております。先ほどから国語力は生きる力というお話がありました。読書することは、その第一歩だと思いますので、今後も読書の推進・啓発を行ってまいりたいと思っております。以上でございます。

○村上英明委員長

中川参事。

○中川こども教育課参事

9番目の各園の情報共有の場の必要性についての質問にお答えいたします。

事務局といたしましては、各園の先生方が、各園への取組等について、情報共有できる場を提供することは、有意義であると考えております。本市全体の就学前教育・保育の質の向上を図るためには、まずは就学前教育に関する各要領・指針がございます。その内容に、まずは則りながら、また、令和4年度に改定いたしました就学前教育・保育実践の手引きの内容に記載させていただいていることを中心に、様々な取組を推進していくことが事務局の責務であると考えております。

就学前施設におきましては、園により保育の手法や理念・目標が全く異なる場合もございます。その1園1園の考えを尊重しながら進める必要もございます。

しかしながら、各園が情報を共有できる場の設定は必要であると認識しておりますので、今後、研修や会議の中で、そのような機会をつくっていくことも検討してまいります。以上でございます。

○村上英明委員長

坂本課長。

○坂本出産育児課長

それでは、11番目のつどいの広場における就学前教育へのアプローチ、働きかけについてでございます。

全てのつどいの広場におきましては、国の事業実施要綱に基づきまして、地域の子育て関連情報の提供を行っているところでございます。就学前教育施設を利用していない子の保護者に対しましては、つどいの広場の職員である保育士から、小集団での生活や経験が、子の体や情緒の発育に大きな影響を及ぼすことをお伝えしております。

また、2歳半や3歳半といった乳幼児健診の場合におきましても、保健師等から集団生活の経験の必要性をお伝えしているところでございます。以上でございます。

○村上英明委員長

大橋部長。



○大橋次世代育成部長

そうしましたら、私から、出生数と（仮称）摂津市こども計画についての御質問にお答えしたいと思います。

先ほど担当課長から答弁がありましたけども、出生数に補足的に関する数字を御説明しながら答弁させていただきたいと思います。

まず、先日、全国の出生数について、速報値で75万人ほどということで、前々年が80万人ぐらいで、2023年が75万人と、いずれもマイナス5%という数字になってます。これを関西2府4県で見ますと、2023年の数値ですけど、マイナス3.6%、で、大阪府はマイナス2.7%、京都府がマイナス7.4%、兵庫県がマイナス2.5%、これをさらに摂津市で見ますと、摂津市が2021年から22年で、マイナス7.3%、2022年から23年で、マイナス9%、そういう状況にあるということです。

全国に比べて、率がかかなり高いということで、危機的な部分があるんですけど、この状況をそのまま単純に見るということはあまり適切ではない。というのは、以前から申し上げているんですけども、摂津市の場合は、安威川以南と安威川以北の大きな人口構造の違いがあると。ちょっとまだ2023年のマイナス9%の状況、地区別の分析ができていないんです。先ほど担当課長から答弁申し上げましたが、安威川以北は、令和元年度と令和4年度のこの4年間の増減率で申し上げますと、プラス3.6%、ちなみに、千里丘小学校はプラス17.7%、三宅柳田小学校もプラス4.1%です。一方、安威川以南で見ますと、全体で、令和元年度から令和4年度の推移ですけど、マイナス19.6%です。別府地域、鳥飼地域、鳥飼東地域はマイナス30%を超えています。味生小学校についてもマイナス19.8%という状況でございます。

したがって、安威川以北の問題については、少子化というよりも、増加を続けるこの年少人口に対する施策です。どういった対応をしていくかということが重要な部分でございます。安威川以南については、やはりこの著しい減少の部分はどういうふうに克服するかは考えていかなければならない。

ただ、教育委員会で、例えばこの施策を考えたときに、安威川以南と安威川以北で違うアプローチの仕方をするっていうのは、なかなか難しいわけなんです。

ただ、現在、市として鳥飼グランドデザインを実施しておりますので、この部分については鳥飼グランドデザインの中で位置付けをすれば、理屈的には通る。だから、その部分で言いますと、そこに教育委員会として協力していくということになるかと思いません。

ですので、なかなかこの状況を、（仮称）摂津市こどもの計画にストレートに反映するのは難しいかと思っているところでございます。

次に、三宅柳田小学校の土地の話です。私がどこまで答弁できるのかというところの問題はあるんですけども、平成30年に、本市で初めて年齢別・地区別の人口推計というのをしています。2017年の実績値に基づいて、2022年からは5年刻みで推計値になるわけなんですけども、この2022年も実績値が出ておりますので、既にこの時点で、安威川以北で言いますと、千里丘小学校とか味舌小学校ではプラス乖離が出てます。安威川以南で言いますと、鳥飼小学校、鳥飼東小学校、味生小学校、別府小学校

についても、マイナス乖離になっているという状況がございます。この調査結果を見ても、そういう状況にあります。

もう少し長いスパンで見ますと、安威川以北については、この年少人口について、平成30年の段階で、千里丘駅前開発を加味してなかったんですけども、プラスの状況になっています。例えば、千里丘駅前の商業施設を見ても、かなり魅力的になるんだろうと。摂津市駅前と比べても、相当魅力的になると。摂津市駅の時も、周りにミニ開発等がされて、それなりに年少人口が大きく膨らんだんですけど、この千里丘駅前西地区再開発の青写真を見ますと、それ以上に魅力的になっているということを鑑みれば、民間の開発も進んでいくんじゃないかと。

既に、三宅柳田小学校区では、子育て総合支援センター横にマンション計画がございますし、実際、三宅柳田小学校区は、ゼロ歳・1歳の年齢が、増えているという状況にもあります。やはり千里丘駅前西地区再開発と、千里丘駅と摂津市駅をつなぐこのエリア、特に味舌地域と三宅柳田地域はツーウェーということも言えますし、かなり魅力的な立地になりますので、開発が進むのではないかと思います。

そうすると、安威川以北全体の年少人口も、ひょっとすると、今、想定している以上に増えるのではないかとということも考えられます。そうなってくると、千里丘地域の先ほどの議論ですけど、学童はどうなんだというところも出てくるかと思います。

この人口推計の数値をもう少し長いスパンで見るときには、安威川以北の年少人口というのは、今後10年から15年ぐらいは、かなり高い位置で推移するのではないかと思います。

ただ、この10年から15年を過ぎた段階で、今度、65歳以上の高齢者人口が急激に増えていくという推計になっています。そういったことを鑑みますと、年少人口の部分への対応で、高齢への人口の対応を主として考えていく必要があるんだろうと思います。そのときに、今、おっしゃっていただいたようなところを考えていくっていうのは、道理にかなっているのかと思っております。以上でございます。

○村上英明委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

ありがとうございます。ほぼ要望とさせていただきます。

学力向上の取組についてです。習熟度別指導の効果と中学校での課題等についてお聞きいたしました。これについては、某塾のCM、PRの中で、北野高校の9割が、うちの塾の塾生だというようなPRがあるんです。これを見て、一つ思うところは、学校での教育だけでは、公立高校に行けない実態がある。一番人気の高い高校だからというのはあるんですけど、それ以外に、千里高校だったり北千里高校、あるいは山田高校、そして摂津高校についても、一定、そういった影響はあると思っております。その中で、本市の子供たちが行きたい高校に行く、なかなか塾も行けないような子もいる。地域性にもよりますが、そういった観点で、やはり公として、やるべきことをもっともっと進めていくべきだとは思っています。その一つとして、習熟度別指導・授業を、しんどい

学校こそ、優先的に取り組むべきと思います。授業の中で、やはり低いところになると、全体的に低くなってしまふ、引っ張られてしまふ傾向があるのは、これまでの議論でも分かることです。本来やったらもっと伸ばせる子が伸びなくなってしまうことは、非常に残念なことで、そういうところを避けていかないといけない。ぜひ、しっかりと習熟度別指導をどうすべきかは、もっともっと真摯に考え、公立学校の子供たち、摂津市の子供たちが、本当に志望した受験校に合格できるように、しっかりと努力をしていただきたい。習熟度別指導、そして授業等も研究されていくことを要望いたします。

続きまして、非認知能力のところですか。第五中学校区を取組についてのの中身も、よく分かりました。大変よい取組だと思います。ぜひ、進めていただきたい。コト・モノ体験、そういった第五中学校区を取組をやることによって、非認知能力の向上を図っていただきたい。コト・モノ体験も含め、そういうことをするには、どうしても財政的な支援が必要かと思うんです。それについてはどう考えているのかお聞きします。

続きまして、キャリア教育のところですか。ぜひ、自分たちの夢、キャリア教育の職業体験以外でも、自分のことをはっきりと言う場面は、ぜひ設けていただきたい。就職試験でも自分のことをしっかりとしゃべっていく。そこで恥ずかしがっていたら、就職はできないわけです。そういったところも、キャリア教育につながっていくと思います。それは、我が会派の嶋野議員がよく言われる立志式が一つの形だと思います。立志式という形にこだわらずとも、クラスの中で言うとか、様々な場面を通して発表する機会を提供することは、ぜひ、各学校においても進めていただきたい。キャリアパスポートを活用するという観点だと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、オンライン教材の件です。やはり、国語力だと思います。読解力がなければ、数学でも文章問題を解けない、理解についてもしかりです。そこについては、もっともっと、力を入れていただきたい。別に英語は否定するものでもなく、しっかりと進めていただいて結構ですけども、国語について、教育支援課としても、何かこれだというふうに、ぜひ検討していただきたい。やっぱり全国平均から、チャレンジでも、全国学習状況調査でも、国語力が低いのは、一番の問題です。よく出口委員が言われるように、新聞で読解力を鍛えろとか、様々な手法を通じて、国語力を高めていただきたい。それで、全国平均を突破していただきたい。これも要望とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

続きまして、給食センターの件についてです。協議会でもいろいろと議論をされております。今後、設計の中で、どう入れ込んでいくというのは、難しいところもあるかとは思いますが。各委員からも様々、そういったプラス機能を要望しておりますので、私からも、ぜひ検討していただいて、よりよい給食センターの実現に向けて取り組んでいただきたいので、要望とさせていただきます。

続きまして、通学の話です。自転車通学、バス通学の可能性について、現状、第三中学校で試験的に実施をしていると理解いたしました。ぜひ、今後どんどん発展していてもらいたいと思っております。体力が減っている中で、子供も歩くべきだということもあるかもしれないですけども、子供たちの体力に応じた通学が非常に大事と思っております。安全・安心を含め、今後、歩く以外に、バス通学、自転車通学の可能性をどんどん研究して、進めていただければと思いますので、要望とさせていただきます。

続きまして、図書館のところでは、就学前教育施設との連携でお聞きをしました。公立とはやっている。それぞれ絵本の読み聞かせの広場もやっているという理解をいたしました。これは要望です。就学前教育施設は、私立園が圧倒的に多いです。私立園との連携は、就学前教育の充実、そして図書館との連携においては、欠かすことはできない話です。そこは、今後の保育教育課と連携して、私立園と図書館との連携をぜひ進めていただきたい。先ほど、中川参事もおっしゃられました、大型絵本がなかったり、予算を取っているという話です。それを図書館としてもカバーしてあげるのは、極めて重要なことだと思いますので、ぜひ、よろしくお願ひします。要望とさせていただきます。

続きまして、就学前教育施設です。情報共有の場もしっかりと考えていくとの答弁、ありがとうございます。各私立園の個々の思いがありますので、決して強制することはできません。

しかしながら、先ほど言いましたように、研修というか情報共有の場は、極めて重要で、知ることがそもそも大事です。それを活用する・活用しないは、それぞれの判断です。ただ、知らなければ、活用する・活用しないの判断すらもできないので、ぜひ、就学前教育の向上という観点でやっていただきたい。要望とします。

最近の就学前教育施設の入園の傾向について、お聞かせいただきたい。

続きまして、教育施設等の紹介については、理解をいたしました。ぜひ、もっとしっかりと進めていただきたい。就学前教育施設等を経ずに、小学校に行った子は、集団生活とか、なかなか最初のギャップが大きいとお聞きしております。スムーズな、小学校1年生のスタートラインに立つことは、ぜひ進めていただきたい。孤立家庭の防止という観点でも、そういったところへ行ってもらうことは、すごく大事です。地域教育にもつながってきますので、ぜひ、家庭児童相談課とも、アウトリーチとも連携して取り組んでいただきたい。こちらについても、要望とさせていただきます。

(仮称) 摂津市こども計画について、部長から答弁いただきました。別府地域のマイナス30%に驚きで、鳥飼グランドデザインに入れていただき、安威川以南グランドデザイン、それぐらい必要と思うところです。

安威川以北については、開発がある中で、新陳代謝、つまり出入りがあり、子育て世帯が入ってくる影響は大きいと思います。古い地域は、なかなか出入りが少なくなってしまっていて、地域そのものが高齢化してしまう傾向にあります。全国的な少子化が加速化すると、入ってくる方も、子育て世帯がどんどん少なくなってきますので、何とか出生数を増やすことが最終的な解決になってこようかと思ひます。

そこは当然、国の施策にもつながってきますので、市としては、子育て支援をしっかりとやっていただきたい。子供一人の世帯に、二人目、三人目を産んでもらうということも大事だと思います。一般的に言われている孤立感・不安感、経済的な負担感等の軽減・改善について、しっかりと(仮称) 摂津市こども計画にも反映していただきたいので、要望とさせていただきます。

最後、学童保育のところでは、旧三宅スポーツセンターの跡地活用の件であります。これは、今後の推移等も見えていく必要はあろうかと思ひます。摂津市も、これから、どんどん財政的に厳しくなってくる。あそこの可能性は、駅に近いので、PFIとか、民間力の活用は、十分に可能と思ひます。あそこで、摂津市の大きな財政負担なく、民間活

力で、そういった交流施設等ができないか、あそこは非常に大きな可能性を有しているので、ぜひ、もっともっと研究と検討をしていただきたいので、要望とさせていただきます。よろしくお願いいたします。以上です。

○村上英明委員長

では、答弁を求めます。松本参事。

○松本学校教育課参事

非認知能力向上に資するコト・モノ体験への財政的支援についての御質問にお答えいたします。

学校教育課では、このような学校の取組を支援するために、学校マネジメント支援補助金という形で、学校が体験活動を行うために、出前授業を行うことや、校内研修会に講師を招聘することなどに活用できる予算を交付しているところでございます。非認知能力を育むために、子供たちの体験的学びの充実を一層進められるよう、今後も検討してまいりたいと考えております。以上です。

○村上英明委員長

湯原課長。

○湯原こども教育課長

就学前教育・保育の推進に係ります御質問の、当該施設の最近の傾向ということでございます。過去5年間におけます私立幼稚園を除く年齢別の就学前教育・保育施設の入所率なんですけども、各年齢について、年度によって上下しているため、傾向というものはつかみづらいものと考えております。令和元年度から令和5年度、この5年間の平均で言いますと、ゼロ歳児の入所率としましては20.3%、1歳児が50%、2歳児が57.9%、3歳児が57%、4歳児が55.7%、5歳児が56.1%、こういった状況でございます。

本市におきましては、1歳児を見ますと、1歳児の子供のうち50%の子供が、就学前教育・保育を受ける機会があるという環境にありますので、より早い時期から就学前教育・保育実施の手引きを活用した取組を受けることができるのではないかと考えております。以上でございます。

○村上英明委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

ありがとうございます。最後、要望です。

予算も一応、組んでいるということです。各学校が、これからそういったところをどんどん主体的にやっていく中で、予算が足りないと言われないように、そこはしっかりと財政的な支援を充実していただきたいので、要望させていただきます。

就学前教育・保育施設の入園傾向については、理解をいたしました。今、幼稚園等が無償化になっており、どんどん進めていっていただきたい。誰しものが就学前教育を受け、漏れないように、義務教育ではないのは課題ですけれども、将来の成功のためには必要だということで、進めていただきたいので、要望とさせていただきます。以上です。